

現代日本語における「比較」へのアプローチ

八 亀 裕 美¹⁾

1. はじめに

一般言語学では、英語の John is more handsome than Felix. のような文で表される典型的な comparative scheme について、各言語がどのような表現手段を用いているか、という観点からの論考が見られる。例えば、Stassen (1985) (2005), Dixon (2008) (2012) などが挙げられる。また、Heine (1997) は、認知的な観点から整理をしている。

現代日本語の研究では、日本語の形容詞にいわゆる比較級や最上級がないため、比較構文についての論考は、「太郎は次郎より背が高い」のような対応する表現を中心に行われてきた。また、「より速く」のような「より」の用法を比較級の成立ととらえ、いつごろから用いられ始めたかを検証する論考もある。極めて大きなくくり方をすると、「より」を含む表現の分析が比較構文の分析であるとも言える。

本稿では、先に挙げた一般言語学的な論考を参考に、現代日本語における「比較」あるいは「比較構文」を考えていく。ただし、従来のように「より」を含む表現のみを対象とするのではなく、もう少し広い視野で(形容詞述語論、さらには述語論全体を見通して)、どのような表現手段が用いられているか、その実態を実例から帰納する、という立場から観察を進めていく。

整理すると、次のような方向で記述をする。

- 1) 述語論全体を視野に入れる。
- 2) 一般言語学の成果を参照する。
- 3) 現代日本語の実例から帰納的に「比較」をどのような手段で表しているのかを整理する。

結論を先取りして言うと、現代日本語では、英語などのようにはっきりとした「比較構文」というものは取り出すことが難しく、さまざまなストラテジーを駆使して、比較を行ったことを表現している実態が確認できた。Stassen (1985) や Dixon (2008) も典型的な比較を表すのに複数のストラテジーを用いる言語がいくつもあることを述べている。現代日本語もそのよう

な言語の一つであり、従来、比較構文の典型として扱われている「AはBより～」もそのようなストラテジーの一つである(にすぎない)と位置づけられる。また、現代日本語では、「～ほう(が)」を用いた比較表現が発達していることが一つの特徴として注目されることを指摘する。

まず次の節で、本稿の基本的な立場と、用語について確認を行い、その後、現代日本語における「比較」を表す表現をパターン化しながら整理していく。最後に全体像を確認してまとめとする。

2. 本稿の基本的な立場と用語

2.1 述語の意味的なタイプ

本稿の基本的な立場は、奥田(1985)所収の諸論文に代表される奥田靖雄の言語理論に従っている。述語論については、奥田(1988)や工藤(2002)などに従い、述語の意味的なタイプとして、〈運動〉〈状態〉〈存在〉〈特性〉〈関係〉〈質〉の6つのタイプを認める。それぞれについて、工藤(2002)、八亀(2008b)を参考にし、簡単に例文を挙げながら説明すると以下のようになる。

〈運動〉「太郎が椅子を作る」のように、具体的な時間のなかで展開する現象を表す。典型的には動詞が述語となる。

〈状態〉「足が痛い」のように、展開はないが、時間の中に一時的に顕現する現象を表す。例外的な動詞と状態を表す形容詞が述語になる。

〈存在〉「庭にごみがある」のように、時間の中で一時的に存在するものや、「この山にはまむしがいる」のように恒常的な存在を表す。典型的には存在動詞が述語になる。

〈特性〉「この部屋は大きい」のように、恒常的な特性を表す。典型的には特性を表すいわゆる属性形容詞が述語となる。

〈関係〉「趣味が同じだ」のように、複数のものとの間

の関係を表す。「一致する(動詞)」「親しい(形容詞)」「共通だ(名詞)」のようにさまざまな品詞が述語になる。

〈質〉「ポチは秋田犬だ」のように、主語の所属するクラスを表す。典型的には名詞が述語となる。

この中で、本稿の内容と密接に関わりがあるのは、〈特性〉と〈関係〉の二つのタイプである。

本稿で用いる用語のうち、誤解を招く恐れがあるものについて、簡単に確認しておく。基本的に用語全般については、奥田靖雄および言語学研究会の諸論文の規定に従っている。

まず、〈状態〉について確認をしたい。一般に、述語全体を「動的-静的」という2項対立でとらえ、この二つを「動き-状態」という用語で指すことがあるが、ここでいう〈状態〉はそれよりもずっと狭い範囲である。

また、〈特性〉も、この6つのタイプの中の一つとしてとらえている。

形容詞全般についてのとらえ方については、荒(1989)、樋口(1996)(2001)、八亀(2008a)などに従っている。学校文法でいうところの形容詞と形容動詞については、第一形容詞、第二形容詞ととらえ、どちらも形容詞として扱う。

2.2 考察の対象

一般言語学における Comparative Construction の扱いがどのようになっているのか、という点について、簡単に確認しておきたい。

まず、定義について、Stassen(2005)から引用をしておく以下ようになる。

In semantic or cognitive terms, comparison can be defined as a mental act by which two objects are assigned a position on a predicative scale. If the position on the scale are different, then we speak of the comparison of inequality, which finds its linguistic encoding in comparative constructions. Such a construction essentially involves three things: a predicative scale, which, in language, is usually encoded as a gradable predicate, and two objects. Although these objects can, in principle, be complex, the practice of typological linguistic research has been to restrict them to primary objects, which are typically encoded in the form of noun phrases. Thus, a comparative construction typically contains a predicate and two noun phrases, one of which is the object of

comparison (the comparee NP), while the other functions as the “yardstick” of the comparison (the standard NP). In short prototypical instances of comparative constructions in the languages of the world are sentences that are similar to the English sentence in (1), in which the noun phrase following the item *than* is the standard NP.

(1) *John is taller than Lucy.* Stassen (2005: 490)

「何かと何かを比べる表現」全般となると、修辭的な技巧として対比的な要素を含む文章表現全てが対象となってしまうので、この定義に従って、二つのNPと程度性がある述語の三つの要素で構成されたものを中心に観察をしていくことにしたい。ただし、述語論全体を視野に入れる立場から、それ以外のものも、周辺の表現として扱う。必然的に、形容詞が述語となる文が中心になる。また、確認をしておきたいが、実例から帰納的に記述をしていこうとすると、省略などが多く見られ、これらの要素がすべて一文にきれいに揃っている用例はなかなか見つけることができない。省略されたものが文脈から補えるものについては、考察の対象としていく。

ここで、整理のためにDixon(2008)に従って、比較に参加する要素を整理しておこう。

英語の *John is more handsome than Felix.* という表現の場合

COMPAREE … John 主に主語

STANDARD of comparison … Felix. 主に目的語

PARAMETER of comparison … handsome

この3つが基本的な要素であり、言語によっては、次のようなものが言語化されている、

INDEX of comparison … more

MARK of grammatical function of the Standard … than

この要素の取り出しを参考に、日本語の場合を実例に則して整理していってみよう。

3. 〈特性〉を表す文と「比較」

3.1 〈特性〉を表す文の基本的な性質

〈特性〉を表す文は、「この部屋は大きい」のように、典型的には、特性形容詞(いわゆる属性形容詞²⁾)を述語とする文であり、恒常的な特徴をさしだす表現である。

この種の文には、比較を行ったことを明示する言語的な要素は何もないが、話し手がなんらかの基準を基にして、それとの比較の中でもの意義をあきらかに

しているという側面がつきまどっている。例えば、「この部屋は大きい」という表現では、話し手がこれまでの人生経験や、一般的な知識や、この部屋をどう使いたいかという目的意識などからなんらかの基準を設定していて、その基準（STANDARD）との比較の結果、「この部屋は大きい」という表現によって、この部屋の意義を明らかにしている³⁾。従って、非常に広い意味で言えば、「この部屋は」は COMPAREE であり、「大きい」は PARAMETER である、とも言える。

しかし、一般的に〈特性〉を表す文では、このような「比較をしている」という評価的な側面は背景に退き、「何々は—こんな特性をもっている」のように、特徴をさしだす記述的な側面が前面化している。ただし、評価的な側面は、潜在化しているだけなので、基準との比較を行ったことがなんらかの形で明示されると、前面化してくる。

以下、どのような場合に評価的な側面が前面化してくるのか、形容詞述語文を中心に、実際の用例を分類しながら整理してみたい。これらの特徴は重複して現れる場合もある。

実例を用いるため、作例のようないわゆる「美しい」は見られない。しかし、このような実例からの帰納的な記述のあり方は、比較級や最上級などの形態論的な手段を持たない日本語が、さまざまなストラテジーを用いて比較表現を行っている実態を整理するには、必要な方法であると考えられる。

3.2 評価的な側面が前面化する場合

3.2.1 程度副詞との共起

程度副詞が共起する場合、述語の程度性 (gradability) が前面に出てくるため、話し手が自分の中にもっている基準 (STANDARD) との比較を行ったことがわかりやすくなる⁴⁾。

- ・「シートベルトをししないと、着陸時に乱気流などなにかトラブルがあった場合、非常に危険です。お客様がベルトをつけるまでは降りられません」と説明をしたせいか、わりに素直にしたがってくれたが。(機長 1: 125)
- ・イヤホンからはコントローラーの落ち着いた指示が続く。／《右へ修正、二四八度、降下角やや低い。修正せよ。接地まであと二マイル》(機長 1: 66)

3.2.2 対比的にいくつかの〈特性〉が列挙される場合
次のように、対比的にいくつかの〈特性〉が列挙さ

れると、それらの間で比較を行ったことが明らかになる。

- ・食べる時の部位名で言えば、脊髄が通る背骨付きの Tボーンは感染性が高く、ホルモンは中程度、レバーは非常に弱い、ハツは検出できない程度、となる。(アエラ2001.9.24: 30)
- ・少し性質は異なるが、次のように対比的に示している場合も、同様に比較を行ったことが明らかになる。
- ・「虫はデパートで買うもの」と思っている子どもや、「木や水は好き。だけど、虫はきらい」という子どもが増えているといわれるが、虫や生物がたくさんいることが自然なのだということを、あそびながら知ることができる環境こそ大事であると思う。(子ども: 23)
- ・国際線のコックピットでは、時差があるから絶対に眠くなる。日本出発の往路はよいが、帰路が大変に眠い。(機長 1: 116)
- ・「バレエはレッスンも大切ですが、ストレッチ運動も重要だそうですね。特にレッスンを終えた後は、必ずとっていいほど行うとか。(後略)」(嘘を: 41)

3.3.3 比較の根拠となったデータが示されている場合
比較の根拠となったデータが(特に数値で)示されている場合、その数値を根拠に比較をおこなったことが明らかになる。

- ・しかし、見る目がないダメ人事は、「アメリカ在住10年、大学は慶応で、TOEICは900点以上。これは優秀そうじゃないか!」などと勘違いするわけである。そして入社させてみてびっくりということになる。／誤解なきように言うが、私は帰国子女を差別しているわけではまったくない。ただ、「帰国子女」ということで良く見えがちになってしまっている状況に警鐘を鳴らしたいのだ。(就活: 70)
- ・「凶器に使った紐はどうしましたか」／「丸めて駅のゴミ箱に捨てました」／「なぜ二十メートルも？」／「それは……一旦は死体を縛ろうと思ったからです。もしかして、あたしがいない間に息を吹き返したらまずいと思って」／「でも縛りはしなかった」／「はい。どう見ても死んでいるようでしたから」／「縛るにしても二十メートルは長いですね」／「そうですね。よっぽど気が動転していたんだと思います」(嘘を: 156)

次の例では、根拠となる数字の提示と列挙とがあいまって、比較したことが明示的である。

- ・日本では99%が火葬だが、アメリカでは24%、ドイツで39%、フィンランド25%、オランダ48%と火葬率は低い。(アエラ2001.9.24:44)

次の例のように、具体的に数値が出されていなくても、数値を比較したことが明らかな場合もある。

- ・一九七四年、八一年、九〇年と横浜で子どもたちがよくするあそびの調査をしたが、鬼ごっこ、ドロジュン、缶ケリは順位がいつも高い。(子ども:26)

3.3.4 文脈から比較が明らかな場合

前後の文脈から何かと比較をして、特性をさしだしていることが明らかになる場合もある。以下の用例における波線部が、比較を行ったことを表している部分である。

- ・スチュワーデスの所属は国際線・国内線で分かっているが、人数の足りないときなど、国際線の人が国内線にヘルプで乗務することがたまにある（逆はないそうだ）。そんなとき、何しろ国内は一時間くらいの勝負、国際線は一二時間も乗っているわけだからサービスの内容もスピードも全然違うわけで、「国際線はノロい」などと周囲の冷ややかな視線を浴びることになる。(機長1:37)
- ・「夢は自分でキャリアをつくること」／と語るユタカさんだが、大学卒業時に就職せず、三つの人材派遣会社に登録した。／「数年後に米国西海岸あたりで成功している」のが目標だ。そのためにも、とりあえず米国公認会計士やFP（ファイナンシャルプランナー）の資格試験の受験勉強にいそんでいる。(中略)／そんな生活の糧を得るため、収入や勤務時間がはっきりしている「派遣」はとても好都合なのだ。(アエラ2001.10.29:28)

3.3.5 その他「比較を行ったことを明示する表現」がある場合

以下の用例では、基準との比較を行ったことを何らかの表現で明示している。先に確認をした Dixon (2008) の比較に参加する要素の整理を用いながら、形式ごとに整理をしていこう。

【～ほう (が)】

主語が COMPAREE であることを明示する表現手段として、「～ほう (が)」がある。この表現は事例も多い。一般に比較表現というと「～より」を用いた表現のほうが先に記述されるが、STANDARD を明示する必要が特に無いような場合は、この手段だけで十分

である。殊に話し言葉では、こちらの表現手段のほうが中心的な存在ではないかと思われる。

- ・これが小さい会社であれば、スチュワーデスも全員知っているし、苗字よりも名前で呼び合っちゃうような雰囲気が出て、僕にはそのほうがよっぽど楽しい。(機長1:33)
- ・パイロットにもさまざまな男たちがいる。(中略) そういう人がいるかと思えば、「あいつは頭はいいが、飛ばないほうがもっといいやつだ」と言われてしまう人もいた。金儲けがやたらとうまい男で、別に無理して飛ばなくてもじゅうぶんに生活できるほどだった。(機長1:47)
- ・「飛行機が揺れて怖いのと、飛行機酔いと、どちらがいいですか?」／変な質問だが、これにはほとんどの人が「少し揺れても酔わないほうがいい」と答えるのではないだろうか。(機長1:119)
- ・少子化の時代となり、いまや大学は全入時代に入した。(中略) 人事担当者は言う。／「エントリーシートを讀んでいても、浪人している学生のほうが圧倒的に少ない」(就活:89)
- ・また、学歴差別採用は日本の大企業だけではない。学歴差別とは無関係、と学生が信じて疑わない外資系企業のほうが、実は顕著である。(就活:100)
- ・「就職浪人もタイプによる。前年に一生懸命がんばって第一志望の企業の選考を最終近くまで進んで落ちた学生は、実はつぎの年も玉砕するケースが多い。すでに前年、がんばって成長し切ってしまっていることと、毎年、企業の選考基準は洗練され、上がっていくためだ。熱意だけでは通用しない。これに対して、前年は就活をサボって、まったく活動していなかった学生のほうが、成長度合いが高く、翌年は内定にいたるというケースも多いようだ」(就活:50)
- ・長男の嫁である奈央子は、まるで家政婦のように働かされた。いや、奴隷といったほうが適切かもしれない。(嘘を:198)
- ・「どうして京都への転勤なんか希望したの? あっちに行ったら、いいことなんか何もないんでしょ」せめてその点を問うた。／「あっちのほうが近いからだ。決まってるだろ」隆昌は面倒そうに答えた。／奈央子は改めて闇に包まれる思いだった。近い、というのは、福井の実家に近い、という意味だろう。彼が将来は実家に住みたがっているということを彼女は勘づいていた。(嘘を:202)
- ・新型インフルエンザ問題に関して言えば、「監視さ

れるほうが安全だ」と思ってしまう逆説的な状況が起こっています。(アエラ2009.6.8:40)

一般に、〈特性〉を表す形容詞述語文では、倒置がおこって形容詞が文頭に出ることが珍しくない。比較を表す表現でも、特に会話では、次の例のように倒置の例も見られる。

- ・「おまえが静岡から帰ったら教えてやるよ。とにかく悪いのは、おまえたちのほうだ」／おまえたち、という表現を使ったことから、隆昌が彼女と中瀬の関係を知っていることは明らかだった。(嘘を：218)
次の例は、最上級の表現であり、後に6で整理するものとの連続面である。
- ・一人息子の大地は絵を描くのが好きだ。同じ幼稚園に通う子どもたちの中でも、ずばぬけて上手いほうだという。(嘘を：229)

【～に／と／を比べて／比べれば／比べると】

STANDARDを示して、それとの比較を行ったことを「比べる」という動詞を使って明示する方法。MARKと呼ぶまでには文法化していない。

- ・着陸は離陸に比べておもしろい。(機長1:84)
- ・実際、自動車と比べて飛行機はどうかだろうか。飛行機事故の年間犠牲者は全世界で五〇〇人から八〇〇人のあいだくらいが平均だ。自動車事故はいま書いたように国内だけで年間一万人前後の死者が出る。／これだけを比べれば、飛行機輸送は安全だといえるかもしれない。(機長1:104)
- ・「バルコニーでレッスンをしていた早川さんも、当然仕上げにはこのストレッチを行ったでしょう。すなわち、片脚をバルコニーの手すりを載せたはずなのです。ところがここで一つ問題があります。手すりは稽古場のバーに比べて高すぎるのです。身体のバランスを保つために掴まる程度なら、少々の高さの違いも気にならないでしょうが、足を載せてストレッチをするとなるとあまり高すぎてはやりにくい。(後略)」(嘘を：41)
- ・2年前に慶応大学を卒業したユタカさん(24)は、東京都内の外資系保険会社でシステム管理をしている「派遣クン」だ。／月収は70万を超える。大学時代の友人に比べると年収は2倍近い。(アエラ2001.10.29:28)

【～と対照的に／違って】

STANDARDを示して、COMPAREEがそれと逆のありさまであることを述べる表現である。

- ・この後洋次は誰にも会わずに自宅の前に達した。駅からは近いのだが、商店の並ぶ駅前通りとは対照的に、駅裏にあたる住宅街は人通りが少ない。アスファルトが溶けそうな真夏は特にそうだ。(嘘を：58)
- ・音楽家の派遣事業を展開する「エルパ」(東京都渋谷区)にウェブ管理者として派遣されているアキラさん(32)にとっても、今の仕事はヨーロッパ移住に向けてお金と経験を蓄積する場だと割り切っている。／「ウェブデザイナーとして成功したい。むこうは、日本と違ってフリーランスの立場が強いから、移住も視野に入れています」(アエラ2001.10.29:28)

【以上に】

STANDARDを示して、それ以上にCOMPAREEがどのようなありさまであるかを述べる表現である。

- ・電話の主は女子大時代からの友人だった。今でも電話でよく話をする。奈央子が結婚するまではコンサートやミュージカルを一緒に見に行ったりする仲だった。そして独身の長かった彼女も、昨年とうとう結婚した。結婚生活って思った以上に退屈ね、というのがこのところの口癖だ。(嘘を：170)

【その他】

他に、STANDARDであることをなんらかの表現で表しているものには次のような例がある。

- ・緊急車両に関しては、米軍も、そしてヨーロッパの民間空港でも日本ほど対応は遅くない。(機長1:99)
次のような「さらに」は副詞化した「より(より高い)」などと同じようにINDEXに近い働きをしているものとして、整理できる。
- ・こうした大学自慢に加え、サークル自慢が入るとさらに印象は悪い。(就活：33)

4. 「AはBより～」

一般に、日本語において「比較構文」を扱っている論文においては、この「～より」を含む表現が取り上げられることが多い。奥田(1988)の述語の意味的なタイプ分けという観点から見ると、この「AはBより～」は、ここまで見てきた〈特性〉の下位タイプであり、3.3.5で見たさまざまなストラテジーの一つであると位置づけることが可能である。後で見る〈関係〉を表すタイプは、述語の語彙的な意味に〈関係〉を表す要

素があるが、〈特性〉の場合は、述語の語彙的な意味には、そのような要素はない。この場合、「～より」は MARK として機能している。

4.1 「～より」だけで「～ほう」が共起していない場合

「太郎は次郎より背が高い」ような表現であり、日本語の比較構文の代表格として分析されることが多いパターンであるが、実例では COMPAREE と STANDARD がきれいに一文の中に揃っている例はなかなか見つからない。COMPAREE が文脈に依存していることも多々ある。

- ・「しかも国内線のセキュリティーチェックは国際線よりゆるい」(アエラ2001.9.24:18)
- ・縄文時代中期には、平均気温が現在より二度近く高かったといわれる。(縄文人:29)
- ・醸造の専門家によれば、黒酒といっても黒くはない。(中略) アルコール度は十二パーセントくらい。ふつうの日本酒より少し低い。(縄文人:110)
- ・「突然すみません」男は警察手帳を見せた。初めて見るその黒い手帳は、奈央子が漠然と想像していたものよりも大きかった。(嘘を:171)
- ・その後で彼女はまた紅茶を用意した。コーヒーよりも紅茶が好きなのだというと、中瀬は膝を叩いて、「だったら、いい店がありますよ」といって、ある紅茶専門店を教えてくれた。(嘘を:187)
- ・「たぶん僕は、感情の皮が人より薄いんだと思うんです」(アエラ2009.6.8:43)
- ・今日の便は空いていますので、その分 CA も少なくなっています。十一名です」/「非常口が十二あるのに十一名！国内線より少ないのか！」/CA の必要数は、以前は座席数によって決められていたが、今は乗客数によると変更されている。そのため、このように非常口の数よりも CA の数が少ない事態も発生するのだ。(機長1:145)
- ・「そんなふうに評価してくれるのはありがたいが、事実、こんなふうにならなければならぬ。俺という人間は、おまえが思っているよりもいい加減な性格らしいぞ」(嘘を:239)

次の例は、倒置が起こって、COMPAREE が名詞述語になっている。

- ・煙探知機の作動よりも怖いのは、隠れて吸ったあとの吸い殻の始末だ。吸い殻をたとえばトイレのゴミ箱に捨てられでもしたら、機内は湿度がほぼゼロに近いから、あっという間に火がついてしまう。(機長1:127)

4.2 「～より」と「～ほう」が共起している場合

先に3.3.5でも述べたように、実際に用例を集めていると、主語が COMPAREE であることを「～ほう(が)」で明示する例は多い。以下の例では、MARK として機能する「～より」と共に用いられている。

- ・「ギャルって欲張りなんです」/馬場麻子編集長は言う。/「大人が考える企画より、読者の感受性から誌面を組み立てた方が面白い。それが前面に出てくるように心がけています」(アエラ2009.6.8:30)
 - ・お客さんにとっては出発の定時よりも、むしろ到着の定時性のほうが大切なはずだ。(機長1:27)
 - ・実際の飛ばし方自体は、ちゃんと訓練をしているわけだから、コーパイが飛ばしてもキャプテンが飛ばしても、それほど差にはならない。むしろ、若くてやる気十分のコーパイの方が、キャプテンより部分的にはうまいなどということもある。(機長1:55)
 - ・僕の場合、東京の西側に住んでいるので、成田へいくときには東京を西から東へと横切らなければならない。だから午前中に成田から飛ぶときは、前日から空港近くのホテルに泊まる。朝、家を出ても間に合わないことはないが、途中の時間が読めない交通事情でイライラするよりもそのほうが気楽だ。(機長1:142)
 - ・その業績やブランド力で企業に序列をつけることは不可能ではないし、遊びとしてはおもしろいだろう。実際、「2ちゃんねる」などでは「就職偏差値ランキング」をよく目にする。しかし、それよりも、今の時点では小規模・無名な会社に入って成長させるほうがずっとおもしろいはずだ。(就活:42)
 - ・警察としては当然の行動かもしれなかった。通り魔的に強盗が侵入したと考えるより、楠木母子と何らかの繋がりがある人物が押し入ったと考えた方が自然なのだろう。(嘘を:142)
- 次の例では、主語である COMPAREE が「～こそ(が)」でとりたてられている。これも COMPAREE であることを明示する一つのタイプとして「～ほう(が)」に準じて考える方がよいかもしれない。
- ・そもそも企業の人事は、学生が何をやったかはどうだっていいと思っている。それよりも、どうやったかという中身こそが重要だ。(就活:29)

5. 〈関係〉を表す動詞述語文や名詞述語文を用いる場合

Dixon (2008) が Type C として挙げている他動詞を用いる場合（英語では Mary exceeds John in intelligence. のような表現）に近いものとして、次のような例が見られる。

例えば、「この車は、加速性能の点で、従来の製品に勝る／劣る／かなわない。」などのようなものがここに位置づけられる。

- ・でも、私は砂場はどんな遊具よりも優れていると思う。砂場は、子どもたちの自由な発想を呼び覚まし、一人でも集団でもあそべ、何時間あそんでも飽きない。親と子が一緒になってあそべる、そしてどんな形にも作り上げられる。そんな砂場に匹敵する遊具を作ってみたくて二〇代のころ私は考えた。(子ども：10)
- ・総花的な品揃えで勝負しても、他店に見劣りする。(アエラ2009.6.8：19)

最後に、次のような「～以下だ」「～以上だ」「～倍だ」などの名詞述語文も比較を行ったことを明示する表現になる。

- ・109の売り場面積は6935平方メートル。全国2980のショッピングセンターやファッションビルの平均が1万4122平方メートルだから、半分以下だ。(アエラ2009.6.8：19)

以上、英語の John is more handsome than Felix. のような文で表される典型的な comparative scheme について、現代日本語がどのような表現手段を用いているか、ということについて、実例を整理しながら見てきた。

まとめに入る前に、周辺的な問題として、英語のいわゆる「同等構文」や「最上級構文」に相当する表現について、現代日本語ではどのようなになっているか、節を改めて簡単に観察しておきたい。

6. いわゆる「同等」や「最上級」に関連する表現

6.1 「同等」であることを表す表現

Dixon (2008: 805) に、世界の言語の多くでは、more than を表す構造と as same as を表す構造は異なるという指摘がある。現代日本語の「同等」を表す表

現を周辺的な問題として、ここで簡単に整理しておく。

6.1.1 形容詞述語文による「同等」表現

「同じ(だ)」「等しい」のように、語彙的に2項の関係を表す形容詞を述語とする表現がある。述語の意味的なタイプとしては、〈関係〉を表す文になる⁵⁾。これには、八亀(2008a)で整理したように、構造的に次の二つのタイプがある。

タイプ①AはBと～

タイプ②AとBは～

まずはタイプ①の方から実例を見てみよう。このタイプは、〈関係〉を表す文ではあるが、Aの特性をBとの共通性として述べているという点で、〈特性〉を表す文に近い性質を持っている。

【同じ(だ)】

- ・飛行機の安全に関する最終責任者は機長であり、そのために名前が発表されるのは仕方がないことだ。しかし、今回のニアミスに関わっているという点では、管制官も同じなのではないだろうか。(機長1：13)
- ・気流の乱れていそうな雲を横切るとき、そのまま飛ばせば何人かはかならず酔ってしまうようなケースがある。／こうしたときは、ふつうは速度を落とす。自動車でも道の悪いところで速度を落とすのと同じだ。(機長1：120)
- ・刑事ドラマを思い浮かべてほしい。刑事が犯人に話を聞くとき、実は肝心なことは聞かないことが多い。犯人のほうはボロを出すまいと必死になって取り繕っているからだ。それをわかっている刑事は適当に話を聞いて、「ご協力ありがとう」と終わらせる。そして、犯人がホッとした瞬間に、「そうそう、最後にもう一ついいですか？」と本題を切り出す。気の緩んだ犯人は思わずボロを出し、事件が解決につながっていく。／面接での「何か質問は～」はこれと同じだ。(就活：72)
- ・加賀がさっき述べた内容は、中瀬が立てた計画と、ほぼ同じだった。違うのは、隆昌を殺すのが奈央子ではなく、中瀬だという点だった。(嘘を：212)

【等しい】

- ・警察の調査によって、七階にある自室のバルコニーから転落したことが判明している。植え込みがあったとはいえ、土の部分はごくわずかで、周りはコンクリートで囲まれている。そのコンクリートの地面

で頭部を強打したものと推定された。もっとも、仮に運良く土の部分に落下していたとしても、助かる見込みはゼロに等しかっただろうというのが、警察の見解であったようだ（嘘を：16）

【近い／遠い】

さらに周延的なものであるが、一致（不一致）に近似する表現として、抽象的な意味で用いられる「近い（遠い）」が述語となる文がある。

- ・「面白いですよ、お産は。興奮の度合いがファッションに近いかもしれない」（アエラ2001.9.24：38）
- ・「あなたが先程おっしゃったように、バルコニーから人を突き落とすというのは容易なことではありません。特に女性には難しいでしょう」／「不可能だと思わ」／「ええ。不可能に近いかもしれません。でも、状況が違えば話も違ってきます」（嘘を：37）
- ・だが、指揮官はのんびりとタバコをふかし、足もとには革靴。どう見ても、戦闘中の緊迫感とはほど遠い。（アエラ2001.10.29：16）

次にタイプ②の用例を見てみよう。このタイプは、典型的な〈関係〉を表す表現であり、AとBの関係性そのものについて述べている。

- ・ボーイング社によると、両機は機体の大きさが違うが、「兄弟機」といわれるだけあって、操縦席の仕組みは全く同じだった。（アエラ2001.9.24：12）
- ・普通に煮たり焼いたりして使うときも、牛エキスなどの加工食品の場合として使う場合も、「特定危険部位を排除する」という意味では基本的に同じだ。（アエラ2001.10.22：28）
- ・その間、保護者の意識は、「大学ならどこでも同じ」／「偏差値ランキングを元にした大学選択で外れなし」から劇的に変化する。（就活：80）

次の例は、大きく違う、という〈関係〉を表している。

- ・「うちの大学はこれほど熱心ですよ」と、受験生集めのために、どの大学も就職支援策を強調する。しかし、そのわりに、熱の入れ方は差が激しい。（就活：84）

もう一つ別のタイプとして、〈特性〉を表す形容詞述語文で、STANDARDを「～（同じ）くらい」でさしだすことで「同等」であることを表すタイプがある。

- ・好きでも嫌いでもいい。その企業を、これから自分が成長するステージとしてとらえてほしい。そして、「働く理由」を教えてほしい。／「好きだ！」と連呼

される側の気持ちも少しは考えてみたらどうか。一方通行の片想いはストーカーと同じくらいイタい。（就活：65）

- ・「計算が得意。インドの人ぐらい計算が速いですよ（笑い）」（アエラ2009.6.8：44）

動詞述語文では、「匹敵する」「似ている」「一致する」「異なる」「違う」などを述語とする文が同等（もしくは不一致）を表すグループとしてある。

- ・テロから始まった経緯は、第一次大戦の勃発に似ている。（アエラ2001.10.22：10）
- ・アフガニスタンの中央部、5千メートル級に達する山塊は長さ約1千キロ、幅300キロ、津軽平野から琵琶湖の距離に匹敵する。（アエラ2001.10.22：12）
- ・新型インフルエンザはその不確実性ゆえに何ともやりようのない不安にわれわれを陥れています。／この構図は、どこかサブプライムローン問題と似ているようにも感じます。（アエラ2009.6.8：40）

また、「同然だ」「同等だ」などの「同～」という名詞（内省に差はあるが、一部第二形容詞に近づいている）を述語とする文によって表すこともある。

- ・「真珠湾攻撃以上のことが起き、これは戦争と同然です」（アエラ2001.9.24：19）
- 不一致という点では、「逆だ」「逆の～だ」などもここに置いてよいかもしれない。
- ・「VIPフライトではセレモニーにあわせて到着する必要があるという話題」遅く着くのはいいけれども早く着くのはいけない、が原則というわけだ。ふつうの乗客の場合は、早く着くのはいいが遅いのはだめだというのだから、まったく逆の対応だ。（機長1：130）

6.1.2 「最上級」に関連する表現

Dixon (2008: 806) に指摘があるように、英語のように比較級と最上級に異なる INDEX を用意している言語はあまり多くはない。現代日本語の場合、どのような表現を用いているか整理をしておこう。

【最も】

まずは、「最も」「いちばん」などの副詞を伴った〈特性〉を表す文がある。

- ・前派遣労働者のうち、25～30歳は4分の1を占め、最も多い。（アエラ2009.6.8：22）
- ・そんなプロのパイロットたちでも苦手な部分がある。

パイロットの仕事の相手は「機械」と「自然」だ。自分で機械を動かして自然に挑んでいくわけで、組織のなかでの対人関係が下手なことが多く、そのあたりが最も不得意だ。(機長1:46)

- ・こんな経験は彼と同じ就職氷河期世代では珍しくない。山本容疑者が卒業した04年の大学就職率は55.8%。希望した企業どころか就職も難しい。新卒採用から漏れ、非正規社員へ。全派遣労働者のうち、25～30歳は4分の1を占め最も多い。(アエラ2009.6.8:22)
- ・ここまで価値観が反転するといっそひきこもってしまふのが、最も安全だということにもなりかねません。何ともやりきれないですね。(アエラ2009.6.8:40)

【いちばん】

- ・このように、昔から訓練のときがいちばん事故が多い。(機長1:72)
- ・臨界速度直前でトラブルが発生した場合、そのあたりの判断がいちばん難しい。エンジン関係のトラブルなら離陸を中止するが、ブレーキ関係のトラブルなら離陸を続行するという具合だ。(機長1:75)
- ・「(前略)ほんとうになんにもなかったのかよ」/そんなことを言われるのがいちばんつらい。相手の夢を壊しても悪いしね。(機長1:31)
- ・確かに一刻を争う場合、米軍基地に下りるのがいちばん対応が早い。(機長1:99)
- ・話の流れから、おまえが峰子を疑っているらしいということはわかったよ。俺は家族のことをとやかくいわれるのが一番嫌なんだが、おまえは職業的な習性で発言しているのだと解釈して、今回は大目に見てやることにする。(後略) (嘘を:250)

他には、「何より」「どんな～より」を用いるものもある。4.1で整理した用例と連続的である。

- ・まずは①手頃な価格。前進スタイリングしても1万～2万円以内という手の届く庶民的な価格。そして②セクシーに見える服作り。これが何より重要だ。(アエラ2009.6.8:17)
- ・「(前略)『外国人を殺せばすぐ天国に行ける』宗教的信念はどんな共産主義よりも強かった」(アエラ2001.10.22:26)

その他のものとして、次のようなものも周辺に位置づくと考えられる。

- ・結局、「みんなの就職活動日記」でみんなが失敗という現象が起きている。／これは「2ちゃんねる」やミクシィでも同様だと言えるだろう。／暇つぶしで見的分にはいい。しかし、それを最終選考のときまで必死になって見て、参考にしようとするのは愚かしいにも程がある。(就活:58)

また、次のように「1位」であることを明示する表現の一群が観察される。

- ・(popteen という雑誌について) 30万部と侮るなかれ。読者は10代後半女子と限られた層だが、15～19歳女子の雑誌閲覧率は21.6%で全雑誌中1位(08年度、ビデオリサーチ調べ)と圧倒的な人気と知名度。(アエラ2009.6.8:29)
- ・(化粧品会社ロレアルについて) 世界恐慌も第2次世界大戦も、石油ショックも冷戦も乗り越え、いまや化粧品メーカーとしては売上高世界1位を誇る。07年度まで23期連続2ケタ増益という驚異的な業績も残してきた。(アエラ2009.6.8:35)
- ・日本のいろんな業界のサービスは世界一だと聞く。どこの店へ行ってもちゃんとお客さんに応対するし、スーパーだってお客さんを待たせないように工夫している。(機長1:27)

また、語彙的な手段として、「最高だ」「最悪だ」「最低だ」など「最～」という名詞(近年は第二形容詞化が進んでいる)を述語とする表現がある。

- ・このような一芸や研究内容の披露は有効かどうか? / 人事担当者と言わせれば、正直なところ、「反応に困ってしまう」という。自信満々の表情で芸を披露されて、それが寒かったときなどは最悪である。(就活:59)

このように、基本的に現代日本語においても、「最上級構文」と呼べるような構文はなく、〈特性〉を表す形容詞述語文に副詞で意味を添えたり、語彙的に一番であることを明示するなどの形で表している。

7. まとめ

以上、英語の John is more handsome than Felix. のような文で表される典型的な comparative scheme について、現代日本語がどのような表現手段を用いているか、ということについて、実例を整理しながら見てきた。

従来は、現代日本語の比較構文という、「AはBより～」というタイプを中心に据えて分析することが多かったが、実際の用例を見ていると、実にさまざまなストラテジーを用いていることが確認できた。また、テキストタイプによっては、「Aのほうが～」という表現手段のほうが中心的な表現である可能性も指摘した。現代日本語の比較表現の俯瞰図を提示したことになる。今後、ここで整理したさまざまな比較表現について、個々の詳細な記述が必要となってくるが、各表現の位置づけを意識しながらの作業が可能となるだろう。

確認した限りでは、通言語的な研究において、現代日本語の「Aのほうが～」のように COMPAREE であることを明示する手段がある言語というのは報告がない。しかし、INDEX を持たない言語では、現代日本語と同様のストラテジーは有効であるようにも思われる。このような観点からの各言語の見直しも今後の課題である。

関連して、これらの表現の中には、いわゆる「バタ臭さ」を伴うものもあり、中国語や英語などとの言語接触の中で生まれてきた可能性が感じられるものもある。歴史的な発達過程も今後の研究課題である。

注

- 1) YAKAME Hiromi 吉村裕美の言語学研究における筆名。
- 2) 分類の基準が異なるので同じとは言えないが、一般に広く用いられている分類との対応からいうと、かなり重なる部分がある。
- 3) このあたりの詳細な議論については、八亀 (2008a) などを参照。
- 4) このようなものもここに含めることについては、Heine (1997: 109) の表 6-1 (Types of comparative notions) の整理なども参照。
- 5) ここまで整理をしてきた「比較」を表す文では、述語は関係を表す語彙の意味を持っておらず〈特性〉を表す文であったことを確認しておきたい。

【主要参考文献】

- 安達太郎 (2001) 「比較構文の全体像」『広島女子大学国際文化学部紀要』9, p. 1-9 広島女子大学
- 荒正子 (1989) 「形容詞の意味的なタイプ」言語学研究会編『ことばの科学3』p. 147-162, むぎ書房
- 石神照雄 (1980) 「比較の構文構造—〈程度性〉の原理—」『芸文研究』93, p. 41-49 東北大学
- 奥田靖雄 (1985) 『ことばの研究・序説』むぎ書房
- 奥田靖雄 (1988) 「述語の意味的なタイプ」(琉球大学講義プリント) 未公刊 (著作集編集中 収録予定)
- 工藤真由美 (2002) 「現象と本質—方言の文法と標準語の文法—」『日本語文法』2-2, p. 46-61 くろしお出版 日本語文法学会
- 工藤真由美 (2014) 『現代日本語ムード・テンス・アスペクト論』ひつじ書房
- 土屋信一 (1966) 「相談室」『言語生活』181, p. 88-89 大修館書店
- 西尾寅弥 (1972) 『形容詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
- 飛田良文 (1993) 『東京語成立の研究』東京堂出版
- 樋口文彦 (1996) 「形容詞の分類—状態形容詞と質形容詞—」言語学研究会編『ことばの科学7』p. 39-60 むぎ書房
- 八亀裕美 (2008a) 『日本語形容詞の記述的研究—類型論的視点から—』明治書院
- 八亀裕美 (2008b) 「時間限定性」『月刊言語』37-5, p. 42-47 大修館書店
- 八木孝夫 (1987) 『程度表現と比較構造 新英文法選書7』大修館書店
- Dixon, R.M.W. 2008 Comparative constructions: A cross-linguistic typology. *Studies in Language* 32-4, p. 787-817
- Dixon, R.M.W. 2012 *Basic Linguistic Theory: vol. 3 Further Grammatical Topics*. Oxford U.P.: C. 26 Comparative constructions (a revision and expansion of Dixon 2008), p. 343-375
- Heine, Bernd 1997 *Cognitive Foundations of Grammar*. Oxford U.P.
- Stassen, Leon 1985 *Comparison and Universal Grammar*. Basil Blackwell
- Stassen, Leon 2005 Comparative Constructions. in Haspelmath et al. eds. *The World Atlas of Language Structures*. Oxford U.P. p. 490-491
- 【用例出典】機長1 『機長からアナウンス1』内田幹樹 2004 新潮文庫／嘘を『嘘をもうひとつだけ』東野圭吾 2003 講談社文庫 (単行本2000)／就活『就活のパカヤロー』石渡嶺司他 2008 光文社新書／縄文人『縄文人は飲んべえだった—ハイテクで探る古代の日本—』岩田一平 1992 朝日新聞社／アエラ (本文中に号明記)